

SPECIAL FEATURE

建築界で働く7人の女性の
スペシャルインタビュー



画家
塩谷歩波



家具職人
武内舞子



建築家
津川恵理



左官職人
福吉奈津子

建築が直面する
新たなフェーズに挑戦する女性たち



照明デザイナー
中村美寿々



空間装飾クリエイター
平野つぼみ



イノベーションデザインセンター
吉備友理恵

建材と建築家の情報誌

KENZAI NAVI Journal 2025 vol.27

MANUFACTURER

独自の配合設計・解析技術で「音」を解決
イイダ産業株式会社

優れた吸音性と不燃性に意匠的な美しさをプラス
マグ・イゾペール株式会社

PROJECT STORY

断熱性・気密性・耐震性に優れた「FP ウレタン断熱パネル」
高橋建設株式会社×株式会社 FP コーポレーション

迷わない環境づくりと、管理者の負担削減を同時に実現
株式会社ディビーエス×東洋ライト工業株式会社

KENZAI NAVI Journal 〔建材ナビジャーナル〕 vol.27 発行：株式会社プロダグナス 〒160-0007 東京都新宿区荒木町 5-4 KUSAFUKA Bld. 4F Tel. 03-3225-3569

製作力 × 対応力

ZERO BACK

サインの提案から施工まで

発研セイコーには、サイン製作のプロフェッショナルが揃っています。そのため提案から施工までを、高品質かつ短納期で実現することが可能です。また製作の全工程を自社一貫で行うことで、品質や進捗管理にかかる時間やコスト面でのロスを削減することができます。大型のサインから、小型の案内板やピクトグラムまで、どんなものでも承ります。ぜひ一度お気軽にご相談ください。

HAKKEN
株式会社 発研セイコー

東京都足立区入谷 5-15-5
TEL：03-3890-1733



各種サインや、
工場の機械設
備をご紹介します。



発注から納品
までの詳しい
流れはこちら。



CONTENTS

04 SPECIAL FEATURE

建築が直面する 新たなフェーズに挑戦する 女性たち

ALTEMY 代表 建築家 津川恵理 / 画家 塩谷歩波 / 株式会社 KOMA 製品製作部長 家具職人 武内舞子 /
株式会社日建設計 イノベーションデザインセンター 吉備友理恵 / 有限会社原田左官工業所 左官職人 福吉奈津子 /
株式会社ローズガーデンカンパニー 代表取締役 空間装飾クリエイター 平野つぼみ /
株式会社ライティング プランナーズ アソシエーツ 照明デザイナー 中村美寿々

20 EDITOR'S NOTES FOR SPECIAL FEATURE

新たなフェーズに挑戦する7人の女性 × 建材ナビ

22 PROJECT STORY

出会いと創造

24 断熱性・気密性・耐震性に優れた「FP ウレタン断熱パネル」

高橋建設株式会社 × 株式会社 FP コーポレーション

28 「利用者が迷わず目的地へ行ける環境づくり」と「管理者の負担削減」を同時に実現

株式会社ディビーエス × 東洋ライト工業株式会社

32 MANUFACTURER 新たな時代に適応する解決策を、多様な選択肢から

34 独自の配合設計・解析技術で「音」を解決します

イイダ産業株式会社

36 優れた吸音性と不燃性に意匠的な美しさをプラス

マグ・イソペール株式会社

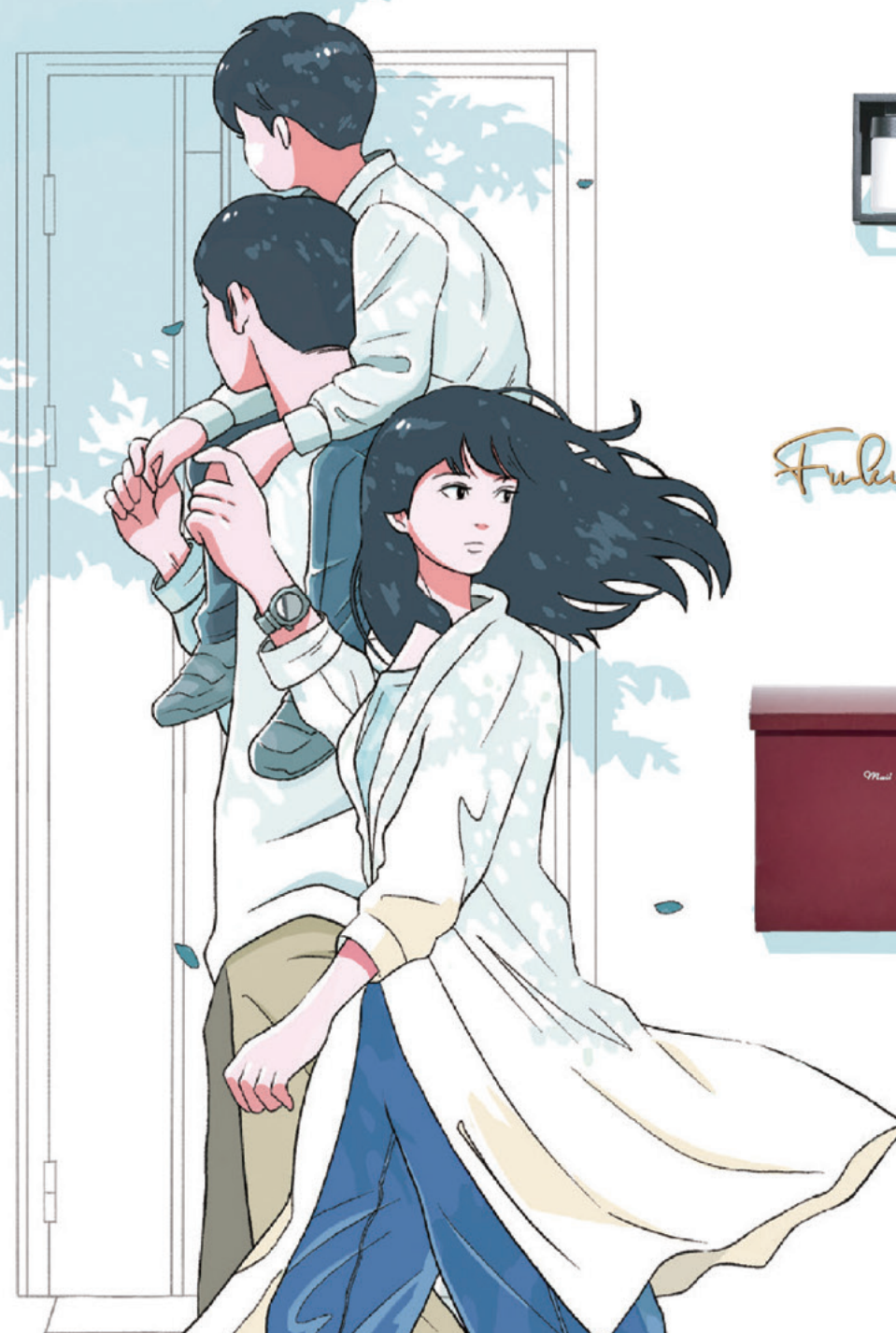
38 INFORMATION

SumaiRing / かたなび



We Design the Future of Signs.

サインの未来を創造する



ホームページ



Instagram

表札 / 看板・館銘板・オーダーサインの総合メーカー

株式会社 福彫

<https://www.fukucyo.co.jp>

 **FUKUCYO**

建築が直面する 新たなフェーズに挑戦する女性たち

人手不足、働き方改革、物価高騰など、困難な諸問題に直面する建築界にあって、自身の道で活躍する方々に想いを語っていただきました。

SPECIAL FEATURE



人と人との
能動性を
大切にしたい

イノベーションデザインセンター
吉備友理恵

04



1点もの作品の
美しさを満たした
製品づくり

家具職人
武内舞子

03



「銭湯図解」
「純喫茶図解」で描く、
心に沁みる光景。

画家
塩谷歩波

02



アーキテクチャー
として挑む、
多様な感性に適應する
社会づくり

建築家
津川恵理

01

EDITOR'S NOTES FOR SPECIAL FEATURE

新たなフェーズに 挑戦する7人の女性 × 建材ナビ

オフィスはもちろん、施工現場、サロン、店舗、カフェなど、どんなステージにも足を運び、皆さまのお声を伺いにまいります。
皆さまのご奇譚のない本音を引き出し、活字にし、読み物として訴求、ユーザーに楽しんでいただくことを使命として、これからもますます頑張り、プロモーションに取り組んでまいりたいと思います。



照明デザイナーが描く、
暮らしに寄り添う
都市のあかり

照明デザイナー
中村美寿々

07



空間装飾クリエイターが
提案する
「人を呼ぶ空間のつくり方」

空間装飾クリエイター
平野つぼみ

06



左官職人として
ものづくりに取り組む
楽しさを

左官職人
福吉奈津子

05

建築が示唆する文化的環境への新たな視点

アーキテクチャーとして挑む、
多様な感性に適應する社会づくり

「なぜこの人の動きに惹かれるのだろうか」——幼少期に抱いた問いが、やがて空間を通じて人と社会の関係を見つめ直す建築へとつながった。三宮駅前広場や渋谷公園通りの都市空間、保育園設計からモビリティデザインまで、多様な領域を横断しながら、前例のない挑戦を続ける建築家・津川恵理さん。社会の規範に問いを投げかけ、自らの建築観を更新し続ける津川さんが見据える、これからの建築とは？

（取材：建材ナビインタビュアー・ライター 藤井由香里）

ALTEMY代表
建築家

津川恵理

PROFILE

（つがわ・えり）

建築家／ALTEMY代表。京都工芸繊維大学、早稲田大学大学院を修了後、文化庁新進芸術家海外研修員としてニューヨークの Diller Scofidio+Renfro に勤務。2019 年、神戸市主催「さんきたアモレレ広場デザインコンペ」で最優秀賞受賞を受賞し、帰国後に ALTEMY を設立。

ALTEMY

東京都中央区東日本橋
2 丁目 26-8
MKK ビル 8 階



身体表現から空間デザインへ
——感性の延長にあった建築

——建築家を志すようになった
きっかけを教えてください。

もともとは建築ではなく、身体表現に強い関心がありました。ダンスを通じて「なぜこの人の動きにだけ目がいくのか？」と感性の違いに惹かれていたんです。ただ、大学進学を勧める親の方針もあり、「理系で最も表現に近いもの」として建築を選びました。建物が好きというより、身体表現の延長として建築を捉えていた感覚が、今の自分の軸にもつながっていると感じます。

——人と社会の關係に焦点を当てた建築に取り組まれるようになった背景を教えてください。

学生時代から広場や都市空間などの公共空間に関心がありました。そこには人と社会の關係性が色濃く表れるからです。建築の魅力は、人の関わり方や振る舞いをデザインできるところにあると感じています。たとえば、神戸の三宮駅前広場では、円弧状の構造と斜めの座面により、全員が異なる方向と姿勢で座るよう設計しました。誰もがマイノリティとなる空間をつくることで、他者への寛容が生まれると信じています。

“前例がない”を
超えるために戦い続ける理由

——社会課題と向き合う中で、特に困難だった経験がありますか？

南青山に竣工した保育園の設計では、前例のない挑戦に直面しました。子どもたちが身体を

使って環境から学べるよう、床全体を隆起させた構造を提案したのですが、認可を得るには「前例を出してください」と求められてしまつて。けれど創造性とは、今ないものをつくること。

前例がないからこそ意味があると考えて、資料作成やデジタル技術を駆使し、半年以上かけて丁寧に協議を重ねました。

根底にあったのは、「前例をつくることで、次に続く誰かの可能性を拓ける」という思いです。最終的には行政も理解を示してくださり、コスト削減の際には「隆起の床だけは残して欲しい」と言っていただけでしたが、大きな支えになりました。

この経験から感じたのは、現代の日本社会がネガティブチェックに傾きすぎていること。クレームや否定的な声に過剰に配慮するあまり、前向きな提案がかき消されてしまう場合が多いと感じます。建築は、ときに社会の規範をつくる力を持つもの。だからこそ、時代の空気に迎

合するのではなく、「何を残し、何を変えるべきか」を考え続ける姿勢が必要だと思っています。

建築≠建物ではない。

文化を育む

“アーキテクチャー”へ

——今後挑戦したいテーマや、建築を通じて実現したい社会像を教えてください。

建築家が建物だけをつくる時代は、長く続かないと思っています。人口減少とともに新築の需要も減るなかで、建築は“アーキテクチャー”として、より広く社会に関われる可能性があると感じています。実際に、西陣織の開発やモビリティデザイン、ファッションデザインなどにも関心を持って取り組んでいます。文化や感性を育てる仕組みこそが、建築の本質的な役割。人が豊かに生きるための文化価値を、建築から広げていきたいと考えています。



まちの保育園 南青山

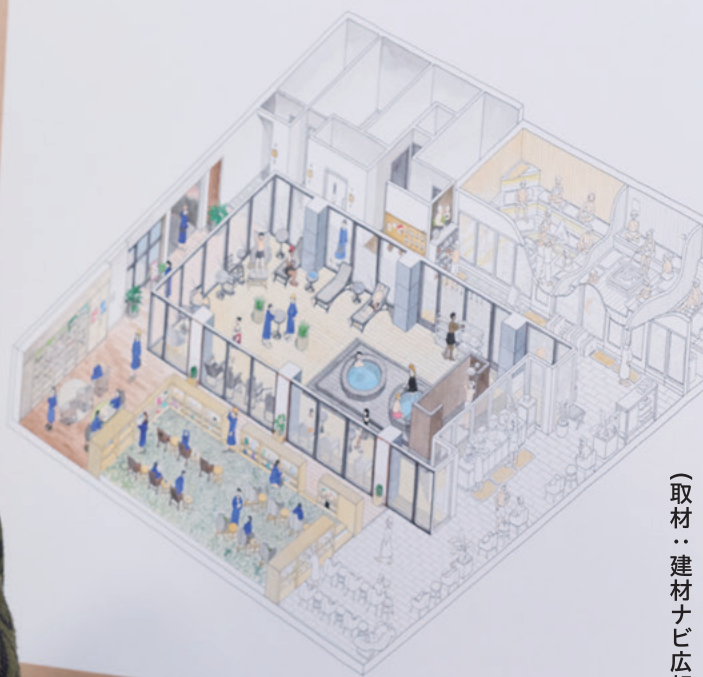
年齢や身長異なる園児たちの活動に明確な境界を設けず、大らかな大地のような床や曲線で保育園全体を構成することで、各領域や活動が混ざりあい、重なっていくことを目指して制作。

好きなもの、残したいものへの〈愛〉を届けたい。

「銭湯図解」 「純喫茶図解」で描く、 心に沁みる光景。

早稲田大学大学院で建築学を学んだ塩谷さんだが、建築設計士の道より画家としての道を選んだ。そのきっかけは、ご自身の体調不良の際に出会った「銭湯」の魅力にとりつかれたからだという。そして、塩谷さんはそんな銭湯の心地よさや癒しの力を多くの人々に伝えたいという思いで、大学で学んだアイソメトリック法を用い銭湯内部の俯瞰図を描き始めた。これが評判となり「銭湯図解」として書籍化され、メディアでの露出も増えた。今後も銭湯に留まらず、様々な建物の内部やそこに集う人間模様を描き続けて行きたいと意欲を燃やす。

（取材：建材ナビ広報担当 長谷部 沙織）



画家

塩谷歩波

PROFILE

（えんや・ほなみ）

早稲田大学大学院を修了後、設計事務所に勤める。その後、高円寺の銭湯・小杉湯を経て画家として活動。建築図法であるアイソメトリックと透明水彩を用いて銭湯を描く『銭湯図解』を発表。書籍を発刊。TBS『情熱大陸』、NHK『人生デザイン U-29』など、数多くのメディアに取り上げられる。近年は、純喫茶空間を描き出す『純喫茶図解』シリーズを制作している。

挫折は多く経験しています。例えば、私の描く絵は1枚がとても大きく、時間も掛かるので、1カ月1枚ぐらいしか描けないんですよ。でも絵を描き進めていくうちにアシデントなどで途中で止まることもあるのですが、そこは建築と結構似ているなと思ったところです。建築も途中でプロジェクトが止まったりする場合もありますよね。建築のいいところは、最初の着手金や途中で何回かに分けて支払ってもらうことですが、私の場合は1枚だけなので、もう途中で止まったら大変なことになります。そこで、建築での経験

験を活かして、何回かに分けて支払いをして頂くことにしました。ここはフリーランスになって、初めて痛感した部分ではありました。あとは、挫折という事ではないのですが、私の仕事は良くも悪くも、誰かに任せることができない、自分しかできないということです。本日は、アシスタントが欲しいのですが、どうしても作家性が出てしまうので、この線も色も、調査部分でさえ任せられない、全部を自分一人でやらざるを得ないということが、かなり厳しいなと思っています。

——今後の目標や計画などをお聞かせください。
そうですね、もっと様々なジャンルを描いていきたいなと思います。サウナ、ミニシアター、茶室、寺社仏閣……描きたいものは山のようにあります。対象

がどんな建物であれ、自分が本にまよめたいと思うものは自分が実際に訪れて感動した場所で、そのお店の魅力を伝えたいという気持ちが一番にあります。建物の中にある小物ひとつひとつまで描いているのは、その根底の感動を形にしているのだから、それが絵にどのように影響するかまでは考えていません。できれば、大きな絵で自分の感動をただ描き続けていたいところですが、日々の生活もあるので今のバランスを続けていきたいです。

上野 Coffee Shop ギャラン （純喫茶図解より）

書籍『純喫茶図解』では、都内近郊の純喫茶18軒をこの緻密で温かいアイソメトリックという建築図法で描いており、実際に足を運んで食べたメニューや店主へのインタビューなども詰まったイラストエッセイ集になっている。



対象が難しいほど描くのが楽しく、やりがい

——画家として銭湯や純喫茶など、細かくて繊細な風景を選んで描かれている理由をお聞かせください。
建物が好きだと思いつつ同時に、描きたい気持ち湧き上がってきます。そのため大好きな銭湯や純喫茶を描くことは自然なことだと思っています。また描くこと自体好きなので、建物が複雑だったり図面が残っていないような、描くのも調べるのも「大変」な建物の方がやり甲斐があって好きです。描く事が楽しいと言え

るのは、その色合いの数が多くて、沢山の色を使えるということ、水彩で描くので、光の表現を豊かに発揮できる場所だと思っています。

——今まで色々な建物を描かれてきて、とても魅力的だと思われた建築のパーツ、材料などがあれば教えてください。
純喫茶や銭湯ならではの魅力的な素材といえば、タイルですね。タイルも一つ一つに繊細

な模様が描かれているときなどは、すごく面白いなと思います。描いているうちに、それ以外の建物も含めるとなると、錆びた銅や鉄なども深みがあり、のっぺりしたものや違って、描いていて楽しいなと思えます。新築の建物などで使われる真新しい建材も素敵ですが、私には汚れやゴツゴツのある建材や、色ムラがあつて少し汚れているコンクリートの方が、描く上では魅力的に感じられます。

設計からの転身でフリーランスの厳しさを痛感

——画家として認められるまでチャレンジしてきた中で、挫折を感じるような経験はございましたか。

家具工房KOMA／
使う人と永く寄り添える家具の職人として

1点ものの作品の 美しさを満たした 製品づくり

株式会社 KOMA 製品製作部長
家具職人

武内 舞子

PROFILE

(たけうち・まいこ)

東京都出身。KOMAの製品を展示会で見て惚れ込み、2013年アルバイトとしてKOMA入社。2014に正社員に。KOMA社長の松岡氏の椅子部門の一番弟子。職人であると同時に生産管理、日々の段取りなどを通して部門をまとめ、部下を管理する立場でも力を発揮している。

株式会社 KOMA
本社工房

東京都武蔵村山市伊奈平 1-29-1



東京郊外にある家具工房KOMAの家具職人として、多くの仲間と共に手仕事にこだわった家具を作る武内さん。世の中に女性の家具職人さんはそう多くはないのではないかと、KOMAには武内さんのほかに多くの女性が「使う人と永く寄り添える家具づくり」をモットーに、家具づくりに取り組んでいる。KOMAの代表である松岡茂樹氏は「現代の名工」の称号を持ち、世界のデザイン賞を多数受賞している家具マイスターである。そんな親方のもとで修行し、成長を続ける武内さんの仕事ぶり、描いている将来の夢などを伺ってみた。

(取材：建材ナビ広報担当 長谷部 沙織)

やりがいに繋がる

「若い衆」作品制度

——どのような経緯で親方である松岡茂樹さんに弟子入りされましたか？

私は高卒後すぐに家具作りの道に入ったのですが、その頃からKOMAという存在は知っていました。松岡さんに出会ったのは、たまたま知り合いに誘われてKOMAの展示会に足を運んだ時でした。松岡さんについ

ては、何となく凄い人だとうわ

さでは聞いていたのですが、実際会ってみるとそのエネルギーに圧倒されたというのが第一印象でした。その時、こんな人たちと一緒に仕事をしたら絶対楽しいだろうなと、その場で働きたいとお願いしたのがきっかけで現在に至るというわけです。その時私はまだ19歳くらいで、今から14年前のことなのですが、松岡さんはあの時私を感じたままの人で、それは今でも全く変わっていません。

まず、木をこんな風に削ってやっている人など他にいなかったです。これから第一線でやって行くぞという熱量がすごくて、そのうち有名になる人なんだろうなと思っていました。

——KOMAとはどんなチームですか？

KOMAはやれる奴が偉いという風に親方が見てくれるので、何年いたかどうかではなく、やったらやった分だけ上に行けるという会社なので、そこが一番面白くやりがいのあるところです。

「若い衆」作品制度というの

もあり、これは普通の木工業界ではありえないことなのですが、

会社が「若い衆」の作った作品を買い取り、名前を出して売ってくれるのです。すごくありがたい制度で、KOMAじゃないとできないことではないかと思っています。やればやるだけ、次の仕事をもらえたりしますので、とても充実しています。

また、社内でカンナの薄削り大会というのを週1くらいやっていますが、それは親方が薄削りをした時に、刃物は研ぎ方によって圧倒的に仕上げ時間が短縮されることが分かったからで、うちの会社では刃物を使ってやる仕事が多いので、定期的に全員でカンナ削り台を並べて薄削り大会をやっています。カンナ削りは、薄さ何ミクロンという数字が出ますから、その数字によって仕事を任せられるかどうかの目安にもなります。

職人に必要なものは、
強い心と強い身体、
そして好きという気持ち

——椅子製作の魅力とは何です

か？また、挫折を感じたことがあれば教えてください。

職人としての楽しさという、やはり、やればやるだけできるようなのが目に見えてわかるので、そこはすごく面白いですね。薄削りもやっているうちにどんどん先が透けて見えるくらい薄く削れるようになって、嬉しくなります。

椅子製作の方は、親方がデザインしたものを私が仕上げを担当する時など、単純に自分が考えた製品ではないので、自分の頭の中にないものを同じ形で仕上げないといけないのはすごく難しく、理解するまでにはとても苦労しました。一点もののクオリティの製品を作っているというのが、怖くもありますし、当然、形を変えてしまっても怒られる時もあります(笑)。

また、仕事を進める中での、挫折はいっぱいありましたよ。中でも最初の最初で「うわ」と思ったのは職人としての体力不足でした。絶対これついていけないと思う、整体にも通い、先生にも相談したところ「仕事辞

めるか、身体鍛えるか、どちらかですね」と言われました。それで「辞めるは無しだから、そうだ、身体を鍛えよう」ということで体力の悩みはそれでクリアしました(笑)。

——今後チャレンジしたいこと、後輩に伝えたいことについて教えてください。

そうですね。親方の作る曲線はすごく象徴的だと思うのですが、親方とは違うテイストの椅子を作っていきたいなと思っています。

今はまだ親方の設計デザインがほぼ全てなのですが、やがては自分もクリエーターとして挑戦していきたいと思っています。まだまだ足りていないのは分かっているのですが……。

後輩たちには、何があっても「負けない気持ち」、たとえ先輩を差し置いてチャンスが巡って来た時などにも「よっしゃ」とチャレンジする強い気持ちを持ってほしいですね。そんな心が折れて辞めてしまう人もいましたからね。

KOMAのクルー

新たな視点で社会課題に取り組むプラットフォーム〈PYNT〉

人と人との能動性を
大切にしたい

吉備さんは日建設計内の組織であるイノベーションデザインセンターで活動。PYNT（ピント）という共創プラットフォームの運営を手掛ける。東京大学大学院新領域創成科で学んだ知識と経験を軸に、社会課題を起点とした「共創のつくり方と進め方」の探求を続ける。その中で特に「共創プロジェクトにだれがどんな想いでどう関わっているか」を見える化するツールとして完成させた「パーパスモデル」を書籍化した。誰もが自分らしく、安心して暮らすことのできる持続可能な社会の構築を目指す共創プロジェクトを推進する吉備さんのこれからに期待したい。（取材：建材ナビ広報担当／二級建築士 秋葉早紀）

株式会社日建設計
イノベーションデザインセンター

吉備友理恵

PROFILE

（きび・ゆりえ）

神戸大学工学部建築学科卒業。東京大学大学院新領域創成科学研究科修了。2017年4月、日建設計入社。同社NAD室（現コモンズグループ）配属。一般社団法人Future Center Alliance Japan への出向を経て、イノベーションデザインセンターで活動。2023年、PYNTの企画・運営を担う。共創を概念ではなく誰もが取り組めるものにするための「パーパスモデル」を考案。Forbes JAPAN の「NEXT100」に選出される。

株式会社日建設計
PYNT

東京都千代田区
飯田橋 2-18-3
03-5226-3030



社内外を繋ぎ、
共に考え、共に生み出す

——お仕事について具体的に教えてください。

私が所属している『イノベーションデザインセンター』というチームは、社会課題を起点に、社内外を繋ぐことで日建設計1社ではできない新しい価値を生み出すチームです。2023年からは共創プラットフォーム「PYNT」を立ち上げ、「まちの未来に新しい選択肢をつくる」というパーパスのもと、社内外の想いある人が集まり、課題の掘り下げから、アイデアの社会実装まで、1人ではできない挑戦に取り組むことができる場をつくっています。

PYNTの活動は3つのレイヤーで行われており、私はその全体をみています。まず、人やアイデア、様々な活動が集まり、つながるきっかけとなる「場」をつくっていく「プラットフォームチーム」、そこで出会った人々が小さな活動を始め、横断的なプロジェクトへと広げる「プロジェクトチーム」、それらを社会課題

を解決する事業やムーブメントづくりへとつなげていく「ビジネス&ムーブメントチーム」、それぞれのチームが連携することで、社会課題を起点とした共創を社会実装までつなげています。

——今のお仕事をされるようになったきっかけを教えてください。

私もいきなりこの仕事に会ったわけではないのです。大学で建築の意匠設計をやり、大学院では都市計画でアーバンデザインを学ぶ中で、建築のコンセプトを考えるのが好きな学生であり、そういうところが今の仕事に繋がっているのかもしれませんが。

パーパスモデル：
人を巻き込む
共創のつくりかた

「パーパスモデル」というツールを用いて国内外の共創プロジェクト事例を分析しつつ、共創の考え方や方法について解説したもの。



また、大学の枠を超えた建築学生団体の代表や、自分自身をメディア化するような活動もしており、「組織や業界を超えて、一緒に新しいものをつくる」という感覚が育まれていったように思います。

当たり前を疑って、そもそもなんのためにこの建築をつくるのか？という設計の前のことを考えたり、人の価値観や行動の変化につながるようなデザインを考える仕事に就きたいと、インターンとして参加したのが日建設計だったのです。

その時に教えてもらったのが「Nikken Activity Design Lab」通称「NAD」（現コモンズグループ）という新規事業のチームでした。そのチームに出会い『自分がやりたいのはこれだ』と思った私は当時、新卒採用は無しと言われていたそのチームに、どうしても入りたいと門を叩いて、入れてもらったのです（笑）。

「NAD」は、そもそも建物を建てる前のコンセプトづくりから、建った後の運営の段階まで「人の能動性を高めるデザイン」を行っ

ているチームで、私もその中でデザインコンサルティングのような仕事をしていて、その時に新しい価値観として「オープンイノベーション」や「共創」という考え方に初めて出会ったのです。

それから、「NAD」での仕事をやっていく中で、自分の専門性に悩む時期があり、建築や都市の勉強はやってきたけれど、中途半端だなと思っていたところもあって、自分の中に専門性の軸をきちんと作りたいという気持ちが強くなりました。悩んだ末に次の2年間で一般社団法人Future Center Alliance Japan（FACJ）にリサーチチャーとして出向し、ひたすら国内外のオープンイノベーションの場や共創プロジェクトの調査をやってきました。

その時、オープンイノベーションに取り組んでいる企業は、社会的意義のある新しい価値を生み出しているはず！と期待に溢れていたのですが、インタビュを重ね、想いはあれど実現にとっても苦労している現状を知りました。

「社会課題解決」や「共創」に対する理想はあっても現実とし

て思うように進まないのはなぜだろうと悩んだ先に、自分でも「どのように共創が生まれ、どんな価値を生み出しているのか？」を調査するリサーチプロジェクトを立ち上げました。それが共創を誰でも取り組めるものにするという想いでつくった『パーパスモデル』に繋がっていきました。

社会環境デザインへの取り組み

——今後の取り組みについて教えてください。

PYNTでの活動については、最初こそ入り口となる機能を構築することに注力していましたが、2024年からは少しずつプロジェクトの形を成して来て、今は事業や政策提言など出口側となる部分を目指す活動にも力を注げるようになりました。本業の領域を拡張すると同時に、そのさらに先の、社会的アジェンダともいえるべき課題にも取り組んでいます。例えば、人口減少する地域の移動やインフラをどう再構築していくか、少子高齢化の中、子育て世代や高齢者

が暮らしやすい社会環境とはなにか、資源が枯渇する中で、建物のサーキュラーをどのようにしたらよいのか、など13個ほどのテーマに多様な専門性やセクターの人が集まって、取り組んでいます。これらは5年10年20年先に向けて取り組んでいく必要がある長期的なテーマです。だからこそ、単発のプロジェクトではなく、長い目線で共に取り組める共創の仕組みを整えていく必要があると思っています。今年には「FUTURE LENS」というプログラムを実施し、日建設計の専門性と資金提供を行うことで、地域に根差した事業主体と共に3つのテーマで実証研究を始めました。

それ以外にも、課題を探索している研究者や専門家、政策提言などルールへの働きかけが行える人、投資家や金融機関、メディアなど、変化のうねりを生み出していく幅広い主体との連携を具体化し、共に、誰もが自分らしく、安心して暮らすことのできる持続可能な社会環境デザインに取り組んでいけたらと思います。

自らの手で創り上げた質感や表現で空間を彩る左官仕上げ

左官職人として

ものづくりに取り組み楽しむ

およそ60名の左官職人のうち、10名を超える女性左官職人が活躍する文京区の前田左官工業にて一級左官技能士として働く福吉奈津子さん。左官と言えは、漆喰、珪藻土、モルタルなどの素材を壁や床などにコテを使って美しく塗り仕上げる仕事である。コテの使い方の柔軟性や強弱など、そのテクニックによって仕上がりが左右される、ある意味クリエイティブなセンスが求められる仕事でもある。今年で入社17年目という福吉さんに仕事のやりがいや、苦労されたこと、後輩へのアドバイスなどを伺った。（取材：建材ナビ広報担当／二級建築士 秋葉早紀）



左官職人

福吉奈津子

PROFILE

（ふくよし・なつこ）

神奈川県出身。2005年に前田左官工業所に入社。同社で産休・育休制度を活用した初の女性職人。14年、建設業女性代表として安倍晋三首相を表敬訪問。東京都「ものづくり・匠の技の祭典2017」において「匠なでしこ」受賞。

有限会社前田左官工業所

東京都文京区千駄木 4-21-1
ハラダビル



現場で磨いた技術と経験が生かされる仕事

——左官職人という仕事を選ばれたきっかけを教えてください。

きっかけは、最初に入った造園の会社がやはり男性中心の職場で、あまり人間関係がスムーズにいかなかったため、インターネットで「女性 建築」と検索をかけたところ、今の会社、前田左官にたどり着いたということです。その当時、左官という仕事に何か知識があったからというわけではなく、そこに他にも女性が働いているという理由で決めたのですが、20年前のことなので今ほど情報が沢山ある環境でなく、ただ身体を動かしていっぱいお金が稼げそうな職種と思い（笑）、選びました。

——職人としての技術を身に付けるのは大変でしたか。

他の建材などもそうだと思うのですが、左官材料も時代のニーズに合わせて変わって行きます。会社としてもどんどん意匠的なものを採り入れるようになり、建物の目立つところをデザイン重視にシフトして行っているというのは飽きないでやれまうから、そこが長く続けて来られた要因だとも思います。

また、左官という仕事は何か感覚のような、言葉で説明しにくいところがあり、例えばコテを使う力の加減や押さえ方のような、やはり経験を積まないとできないようなことが結構あります。ですから現場で技術を磨くというか、できるまで何度もやってみるしかないですね。た

だ、現場では塗っていて楽しいというより、失敗できないというプレッシャーの方が大きいので、緊張しながらやっています。でも、どんな仕事でもそうですが、手を抜こうと思えば抜けるところもありますが、どんな細かい部分でも絶対手を抜かずきちんとやるということを心掛けてやっています。

——女性だからこそその特性が生かされるポイントがありますか。

それすごく難しいのですが、入りたての最初の頃は若干、女性の方が呑み込みが早いというか、聴く能力が高いような気も

目に見える所に自分の仕事が残るという左官の魅力

——現場で苦労されたこと、左官の仕事で面白いところについて教えてください。

現場の大変さと言えばやはり暑さ、寒さですね。最近の夏の暑さは半端なく暑いですが

らね。それでも空調服の着用など、熱中症予防の暑さ対策は、元請け側からの配慮もあり何とかなっているのですが、冬の寒さも大変です。気温も5℃以下になると材料にも影響があり、作業時間や待ち時間などが長くなったりもします。建設業界は、本当に気候に左右されてしまいます。

あと、よく苦労するところとしては、現場に行ってからエレベーターが使えない、他の業者が多すぎる、片付いていないボードも貼られていないなどのトラブルもよくあります。また、左官の仕事で面白いと

ころは、建築のほとんどの部分が完成すると見えなくなってしまうことが多いのに比べ、目で見える所に自分の仕事が残っているというところで、それが左官の魅力だなと思っています。

——今後チャレンジしたいことについて教えてください。

そうですね、最近は大きな仕



前田左官の仲間たち

事も増えてきましたので、今後は自身の生活圏内の何処かで、形に残るような仕事が出来たらいいなと思っています。

また、他の業界と同じく職人の高齢化も進んでいますので、これからは左官仕事の知名度を上げて、若い人にもその魅力を知ってもらうためにPR活動などもできたらいいと思います。

植物を建材と並ぶ選択肢に

空間装飾 クリエイターが提案する 「人を呼ぶ空間のつくり方」

株式会社ローズガーデンカンパニー 代表取締役
空間装飾クリエイター

平野つぼみ



PROFILE

(ひらの・つぼみ)

空間装飾クリエイターとして、ヘアサロンを中心とした店舗のフラワー装飾やオフィスグリーン装飾、各種イベントの装花を担当。「空間デザインで顧客体験を最大化すること」をテーマに植栽を用いた居心地のいい空間・一目惚れする空間を提案している。

株式会社ローズガーデンカンパニー

神奈川県横浜市都筑区早瀬 1-35-2
0120-963-871

装飾ブランド
IROHAD'ECOR



建築の設計・施工において、植物は「最後に足すもの」という認識が根強い。だがその存在が、人の心を動かし、もう一度訪れたくなる「空間の余韻」をつくっているとしたら？「植物は癒しではなく、空間のパフォーマンスを上げるもの」。そう語るのは、空間装飾クリエイターの平野つぼみさん。照明や建材の質感を引き立て、光や風を感じさせる「植物という建材」の可能性と、空間づくりのこれからを聞いた。

(取材・建材ナビインタビュアー・ライター 荒川ゆうこ)

一目惚れする空間には理由がある

「植物は、空間の中でどういう役割を果たしているのかわかるか？」

「空間のパフォーマンスを上げること」を一番に考えています。たとえば、入った瞬間に「わ、素敵……！」って感じるお店ってありますよね。あの「一目惚れ」

のような感覚。実は、それが空間全体の印象を決めるんじゃないかなと思っています。その瞬間を植物でつくるのが私の仕事だと思っています。一度心を動かされた場所には、また人が訪れたくなるもので、植物には人を呼ぶ力があると感じます。癒しや豊かさは前提として、その先にある「もう一步先の価値」を植物で届けられたらと思っています。

「お客様とのイメージ共有は、どのように進めていますか？」

「日曜の朝9時の感じ」とか「このゲームの世界観で」とか、ふわっとしたオーダーも多くて(笑)。でも、それでいいと思っています。植物でどうしたいって、言語化しにくいんです。

だから、その空間にどんな人が来てほしいのかを丁寧に聞くようにしています。女性でもターゲットが20代なのか40代女性なのかで選ぶ色や素材も変わってきます。「言語化できないことが前提」だと捉えているので、話しながら一緒に探していく感覚ですね。

植物って、優先順位の高いものではなく、「なくても成立する」と思われがちな存在なんです。でも、だからこそ「あると全然違う」と実感してもらえたときに、一番やりがいを感じます。私たちが担っているのは、ただ飾るのではなく、その空間を仕上げる「最後のひと手間」。内装だけでも十分に美しい空間に、植物を加えた瞬間に「これで完成だな」と思える。オフィスや店舗、マンションの共用部な

ど、さまざまな場所で「印象がぐっと良くなった」「ブランド価値が上がったように感じる」といった声をいただくことも多く、植物の持つ力をあらためて実感しています。

「植物を空間に取り入れるときに、意識されていることはありますか？」

私はインテリアを専門的に学んだことはなくて、もともととは外で「植える」仕事をしてきました。だからこそ、空間を見るときも自然と「引き」の視点になります。

室内に植物を取り入れるときに大切にしているのは、光や風を感じられるか。たとえば光を通す葉に照明を当てると、葉の影が壁や床に映ります。空間に立体感が生まれて、風が抜けるような余白も感じられます。人は、光や風を感じられる空間に豊かさを感じる気がするんですよね。

屋内でも、シダやアスパラのような繊細な葉を組み合わせると、光の加減で影が揺らいで空間全体の表情が変わります。照

「空間に植物を加える」という選択肢を当たり前に

「植物を扱う立場から、空間づくりで実現したいことはありますか？」

今は、すべての内装工事が終わった後に「最後に緑を足す」といった扱いなのですが、植物をもっと早い段階から設計の一部として考えられたら、空間の表現の幅はもっと広がると思っています。

「この壁はクロスにする？タイルにする？それとも植物にする？」そんなふうに、建材と並ぶ自然な選択肢として考えてもらえるようになったら理想です。空間づくりにもっと関われるように、まずは植物の露出を増やして、植物があるのが当たり前にしていきます。空間のつくり方も、少しずつ変わっていくと思うのです。



Shalu 平塚店

美容室を丸ごと装飾。最新の造花を天井にグラデーションで配置している。

07

SPECIAL
FEATURE



照明デザイナー

中村美寿々

PROFILE

(なかもら・みすず)

LPAシニアアソシエート。一級建築士。東京大学大学院にて光環境を専攻し、パリ・ラヴィレット建築大学への留学を経て都市照明の研究に取り組む。東京の夜景をテーマに修士論文を執筆後、夜の景観づくりに携わる。主なプロジェクトに長崎市まちなか夜間景観整備、みんなの森 ぎふメディアコスモス、ザ・プリンスギャラリー東京紀尾井町、ハレクラニ沖縄、高輪ゲートウェイ駅など。

株式会社
ライティングプランナーズ
アソシエーツ

東京都中央区佃 1-11-8-1 F
03-4500-6380



既にあるものを魅力的に変える
「光」の可能性にチャレンジ

照明デザイナーが描く、 暮らしに寄り添う都市のあかり

日常の風景に宿る光の魅力

——照明デザインに興味を持つ
たきっかけを教えてください。

建築学科で学ぶなかで、自然

光をどう設計に活かすかに関心
がありました。パリに留学した

際、何気ない夜景の美しさに感
動したのがきっかけです。特別
なライトアップではなく、日常

に溶け込むような光景に惹かれ、
都市照明の世界に進みました。

——都市照明において、どのよ
うなことを意識していますか？

都市照明は、暮らしを支え
るインフラのひとつです。観光
向けの演出ではなく、そこに暮
らす人々の日常を心地よく照ら
すことが大切。そのため、地元
の方々と実際に街を歩きなが
ら「どんな光が心地よいか」を
共有しています。そこで得た感
覚をもとに、街全体を俯瞰する
「光のマスタープラン」として
設計に落とし込みます。

照明デザインは、実は非常
に横断的な分野です。物理の知
識や内装設計、光のシミュレ
ーションまで、多様な視点とスキ
ルが求められます。再開発やホ
テル、公共施設など、扱うプロ
ジェクトごとに異なる光の役割
に向き合うことが、毎回新たな
挑戦につながっています。

快適さと環境を照らす
光の選び方

——照明器具の選定で大切にし

ている視点はありますか？

最も意識しているのは、眩し
さ（グレア）を抑えること。光
源を隠したり、必要な場所だけ
に光を届けることで、空間に余
計なノイズを生まないようにし
ています。それは快適性の向上
にも、省エネや環境配慮にもつ
ながる、大切な視点だと感じて
います。

近年は、膜素材やフィルムな
どの新技術も次々と登場してい
て、器具の型番も毎年のように
変わるほど進化のスピードが速
いんです。キャッチアップは大
変ですが、だからこそ柔軟に技
術を取り入れられるのが照明の
面白さだと思っています。

10年後も愛される、
記憶に残る光を

——働き方や業界の課題などを
感じたことはありますか？

コロナ禍で現場に行けなく
なったことで、照明の微妙な
ニュアンスをどう伝えるかが大
きな課題になりました。光は
現地で感じてこそわかるもので
すが、それをカメラ越しで共有

するのは難しく、空間の空気感
や光のグラデーションがうまく
伝わらない。この経験を通して、
感覚を言語化する力や、チーム
内でのコミュニケーションの重
要性を改めて実感しました。

——時代の変化とともに、照明
の在り方も変わってきていると
思います。今後大切にしてい
きたい視点を教えてください。

最近、かつて自分が手がけ
た場所を再訪する機会が増え
てきました。器具は変わっても、
空間に残る光の質がよければ、
人はその場所を好きでい続け
てくれる。そうした経年に耐える
光を設計することが、今の自分
のテーマです。

照明は目に見えないからこそ、
空間の空気や時間の質を左右し
ます。現代において、日が暮れ
た後の風景は照明がつくり出し
ているという意識を、設計を通
して多くの人に届けていきたい。
時代の変化を受け入れながらも、
人の心に残り続ける照明を、こ
れからも丁寧にデザインしてい
きたいですね。



高輪ゲートウェイ駅

特徴的な大屋根が駅舎を一体的に覆うデザインの建築に対して、照明もそのランドマーク性を十分に高めることを目指した。建築意匠に沿った照明計画と、調光調色制御の活用によって、従来のように照度を確保するだけでなく、刻々と変化する自然光を感じられる、新しい駅舎の照明を実現させた。



武内さん

インタビュー後の写真撮影の仕上がりを確認中

SPECIAL FEATURE
03

親方のエネルギーに惹かれ KOMA へ入った武内さん。体力的な困難も乗り越え、現在は創作に喜びとやりがいを感じているそうです。自身のデザインで新たな椅子製作を目指す姿勢に職人としての情熱が伝わってきました。



塩谷さん

実際に制作しているところを見せていただきました

SPECIAL FEATURE
02

塩谷さんは、複雑な対象ほど描くことに喜びを感じ、多ジャンルへの挑戦意欲を燃やしているのが印象的でした。細部へのこだわりと、困難を乗り越えながらも新たな表現に挑み続ける姿勢にとても感銘を受けました。



INTERVIEWER

長谷部 沙織

(はせべ・さおり)
建材ナビ広報担当

温かみのあるコミュニケーションをモットーに広報担当として建築家やデザイナーなど、ご活躍中の方々にインタビューを行っています。



INTERVIEWER

藤井 由香里

(ふじい・ゆかり)
建材ナビ
インタビュアー・
ライター

一人ひとりの言葉に耳を傾け、その背景にある思考や視点を丁寧にすくいとり、温度をもって伝えることを大切にしています。建築やデザインに宿る感性や社会へのまなざしが、記事を通して届くことを願っています。



中村さん



照明の光具合を
デモンストレーション
していただきました

SPECIAL FEATURE
07

「日が暮れたあとの世界は、照明が見せている風景なんです」という中村さんの一言が、ずっと心に残っています。目に見えない光がその場の空気や時間の質を生み出し、人の記憶にそっと寄り添っていく——そんな照明の力を、改めて感じさせられる時間でした。

津川さん



インタビューページ
メイン写真の仕上がりを確認しています

SPECIAL FEATURE
01

身体表現から建築へと独自の道を歩んできた津川さん。既存の枠にとらわれず、空間を通して社会の在り方に問いを投げかける姿勢が印象的でした。建築の枠を超えて広がるアーキテクチャーの可能性に、今後も注目していきたいと思います。



津川恵理氏と
ALTEMY メンバー×
建材ナビジャーナル
プロモーションチーム

INTERVIEWER



秋葉 早紀

(あきば・さき)
建材ナビ広報担当
二級建築士

業界に携わる方々の思いや建築の面白さを伝えるきっかけづくりをしています。インタビューを通して建築やデザインを、より身近なものに感じてもらえるようにしたいです。

福吉さん



ショールーム内に
併設されている作業場で
実際に使っている道具を
見せていただきました

SPECIAL FEATURE
05

現場で活躍する福吉さんの作業風景も拝見させていただき、淡々と作業される姿も力強く、左官職人の技術と美しさを感じることが出来ました。

吉備さん



プロジェクト
チームとの
ミーティングなど
お仕事の様子を
写真に撮影させて
いただきました

SPECIAL FEATURE
04

インタビューを通して、吉備さんのこぼれるような笑顔と、明るく人を惹き付けるお人柄がプロジェクトやチームを繋ぐ魅力の一つだと感じる事が出来ました。



SPECIAL FEATURE
06

お話を伺って、私も自然と植物に目が行くようになりました。自宅に小さな植物を新たに迎えたのですが、それだけで部屋の居心地が少し良くなった感じがしています。「植物のチカラ」を実感する毎日です。



緑豊かな
ショールームで
じっくり
お話を伺い
しました

平野さん

INTERVIEWER

荒川 ゆうこ

(あらかわ・ゆうこ)
建材ナビ
インタビュアー・
ライター

専門の方のお話は、立場の違う人にとっての新しい視点や発見が詰まった世界。読者のひとりとして、その想いや魅力が自然と伝わる記事づくりを心がけています。今回の平野さんのページも、世界を広げる入口となれば嬉しいです。





施主
株式会社ディビーエス

IoT 製品メーカー
東洋ライト工業株式会社

PRODUCTS
人感
センサー



VOL. 25

トイレや会議室などの利用状況をセンサーで検知し表示する「Aitoru（あいとる）」
「利用者が迷わず目的地へ行ける環境づくり」と
「管理者の負担削減」を同時に実現

以前からトイレや会議室の利用状況をいかに効率的に管理し、来訪者や社員の負担を減らすかという課題を抱えていた株式会社ディビーエスの山本氏と、クラウドを活用したワイヤレスセンサーによるリアルタイム検知、およびモニター・LEDサインを活用したWeb配信を組み合わせた『Aitoru』のカスタマイズ対応をご提案された東洋ライト工業株式会社の高木氏。

お二方が協業されたプロジェクトのストーリーとして、『Aitoru』導入までの経緯と、導入による社内の変化などについて語っていただきました。

建 材 ナ ビ

PROJECT STORY

出会いと創造

建築家と建材メーカーはどのようにしてマッチングに至ったか。プロジェクトはどう完結したか。建材ナビを通じて知り合った、建築家と建材メーカーの両者にインタビュー。知り合ったいきさつ、施工案件の内容、施工のコンセプト、材料の選定と提供など、現場のリアルをたっぷり語っていただきました。建材ナビのインタビューコンテンツ「すまいりんぐ」でも同時紹介しています。

建設会社
高橋建設株式会社

建材メーカー
株式会社FPコーポレーション

PRODUCTS
断熱
パネル



VOL. 24

くらしといのちを守るため
断熱性・気密性・耐震性に優れた
「FPウレタン断熱パネル」

一般住宅で培った技術とFP工法で、耐震性・耐久性・断熱性・気密性に優れた高性能住宅を手掛ける高橋建設株式会社の高橋氏。そして、一年を通じて快適な環境を保つ高性能断熱材「FPパネル」を提供する株式会社FPコーポレーションの営業担当者の方々。

今回は、両者が協業したプロジェクトのストーリーです。

カニやホタテなどの魚介類、工場加工製品の鮮度を保つため、鉄骨倉庫内に「FPの家」の断熱パネルを設置。その施工性の高さ、仕上がりの美しさ、そして維持管理コストの削減といった、実際に運用して見えてきた多くの魅力について、皆様に語っていただきました。

くらしといのちを守るため
断熱性・気密性・耐震性に優れた
「FPウレタン断熱パネル」

—— 今回のオホーツク活魚さんの活魚倉庫について教えてください。

オホーツク活魚さんのカニ、ホタテ、魚介類をはじめ工場加工製品の鮮度を保つために鉄骨倉庫の中に、「FPの家」の断熱パネルを壁、天井に使用して、マイナス5℃の冷蔵庫、マイナス20℃の冷凍庫、マイナス35℃の急速冷凍庫を設置しました。

—— 「FPパネル」を採用することになったポイントについて教えてください。

当時の木造住宅の断熱はグラスウールやポリスチレンフォーム等の断熱材が主流で、断熱性能や気密性能の高性能化が望めませんでしたが、「FPの家」の硬質ウレタンフォーム

を使用したFPパネルは、高气密、高断熱かつ高性能な住宅を簡単に施工できるという点で大きな魅力を感じました。

—— 実際にFPパネルを施工されて、施工性や仕上がりがいかがでしたか？

FPパネルの施工は標準施工をするだけで、手間暇をかけずに、高气密、高断熱、計画換気を実現することが出来ます。工場の一貫生産なので製品も誤差なく現場施工が大変楽になりました。仕上がりには何も全く影響がないので、自由な設計で家づくりが出来ます。

—— FPパネルを採用したことで、活魚倉庫の維持管理コストに変化はありましたか？

お客様からは従来の冷蔵パネルを使用するよりも、インシヤルコストもランニングコストも半分近くになっているとのことをお話を聞いております。



- 1 オホーツク活魚の鮮度保持施設の冷蔵庫内部。白い壁の中に「FPウレタン断熱パネル」。金属扉は冷凍庫の入口。冷凍庫の壁の中にも「FPウレタン断熱パネル」が使用されている。
- 2 鮮度保持効果が高い氷を造る製氷システムエリア。この水で鮮度を保持した魚を冷蔵庫と冷凍庫に保管する。右の金属扉は冷蔵庫の入口。冷凍庫は冷蔵庫の奥に建築されている。
- 3 オホーツク活魚の鮮度保持施設外観。「FPパネル」を使用した巨大冷蔵庫と巨大冷凍庫はこの建物の内部に建築されている。2018年の北海道胆振東部地震時の36時間停電では、FPパネルの断熱性能、保温性能が発揮されたことで全く影響をうけることはなかった。



株 式 会 社 F P コ ー ポ レ ー シ ョ ン

—— 今回、オホーツク活魚さんに施工された「FPパネル」について教えてください。

1年を通じて快適な環境を保てる住まいを目指し開発された「FPパネル」は熱伝導率0.019w/(m・K)と業界最高水準の断熱性能を誇る硬質ウレタンと木枠が一体成型された高性能断熱材です。

—— FPパネルのどのような点が、活魚倉庫のニーズに合致したとお考えですか？

断熱材の断熱性能は摂氏23℃下での性能数値であるため、マイナス温度の環境での適正な断熱材としては繊維系断熱材は不可であり、発泡系断熱材でなければならぬのは知っていました。

以前、九州のお客様で冷凍車を製作している会社の会長に取材した際、マイナス30℃の冷凍車を製作するにはウレタンを70mm以上使用しなければならないと聞いたことがあります。

弊社のウレタン製品は保冷力の高さと同様、水にも強いことが活魚倉庫や野菜の保冷倉庫などに合致していると自負しています。

—— 2018年の北海道胆振東部地震の際、FPパネルの性能が実証されたとのことですが、その時の状況を振り返ってどのように感じられましたか？

胆振東部地震の際はその震源地でもある厚真町や近隣の市町村で「FPの家」を建てられた方がいましたが、被害状況を聞くと全く問題なし、または壁紙に亀裂が入ったというような程度でした。

2007年新潟県中越沖地震、2011年東北地方太平洋沖地震、2016年熊本地震、2024年能登半島沖地震など多くの地震がありました。また日本全国各地で水害の被害も年々

高橋建設株式会社

北海道枝幸郡枝幸町
北幸町 1624-42
0163-62-1455



高橋 悟

代表取締役社長

一般住宅で培った技術とFP工法により、耐震性、耐久性、断熱性、気密性にとことんこだわった高性能住宅をこれからも建てさせていただきます。



メーカープロフィール

株式会社FPコーポレーション

札幌市東区
北 42 条東 15 丁目 1 番 1 号
栄町ビル
0120-073-215



佐藤 克也

営業部 北海道営業所

1996年からFPウレタン断熱パネルの販売に携わり、東日本、北関東エリアの営業担当を経て、現在は北海道エリアを担当。自身の住まいも「FPの家」。その良さを実感しながら日々普及促進に努めている。



武藤 利明

営業部 北海道営業所

VC本部、関西エリアの営業を経て北海道エリアを担当。「断熱省エネ伝道師」として、建築物の省エネは設備に頼るばかりではなく、まずは断熱性能から省エネを考える重要性の啓蒙活動を行っている。趣味はキャンプ。



緒形 雅美

営業部 広報企画課

VC 本部、広報全般を担当。FPパネルのグッドデザイン賞・キッズデザイン賞受賞に貢献。「FPの家」の断熱性を体現するキャラクター「バンイチくん」を創出。



高橋建設株式会社

— 2018年の北海道胆振東部地震の際、FPパネルの性能が実証されたとのことですが、その時の状況を詳しくお聞かせください。

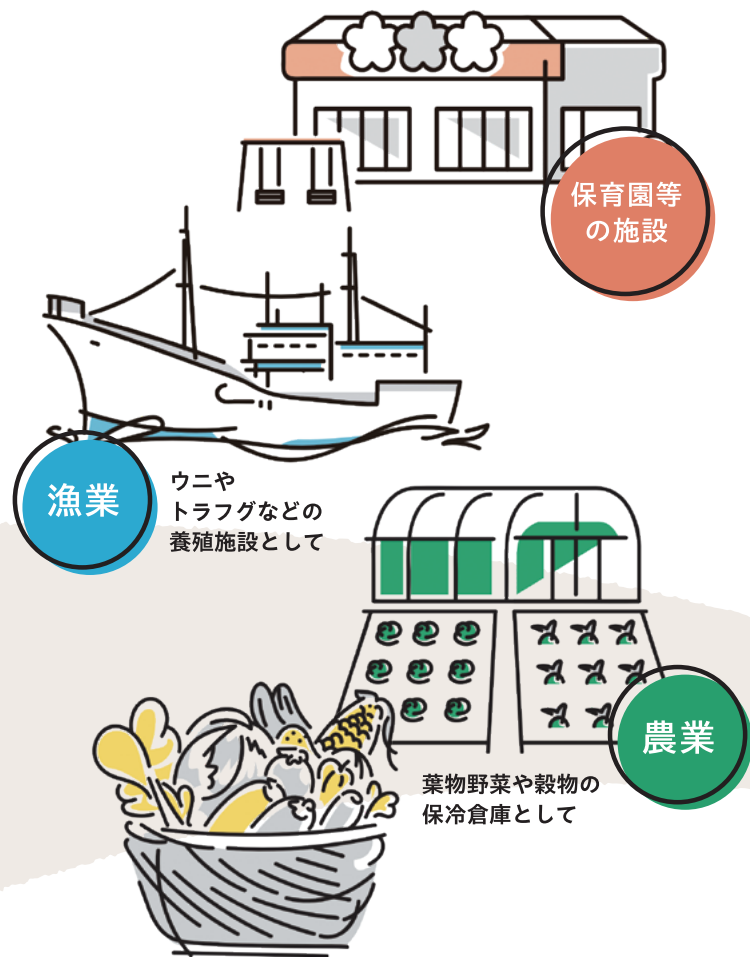
災害当時この地域も36時間近くの停電が発生しました、近隣の様々な冷蔵冷凍工場では停電で冷蔵冷凍設備がストップし、冷凍商品が解けたり悪質になり大変な被害が出たとの事でしたがFPパネルの施設は冷蔵冷凍設備がストップしても、出入口ドアの開閉時間を制限しただけでFPパネルが断熱性能、保温性能を発揮し、通常営業ができ、全く被害はなかったとの事です。

— 今回の活魚倉庫の事例を踏まえ、今後FPパネルをどのような建物に活用していきたいですか？

FPパネルを使用し、プラス30℃からマイナス35℃までのとんでもない温度差を保冷、保温ができることが実証されましたのでどんな所でも、どんな用途でも活用できると考えています。

FPウレタン断熱パネルの今後の活用

戸建てはもちろん非住宅にも活用を推進している。



VOL. 24

くらしといのちを守るため

断熱性・気密性・耐震性に優れた「FPウレタン断熱パネル」



FPウレタン断熱パネルを使用した「FPの家」

工場一貫生産のFPウレタン断熱パネルは、木枠と硬質ウレタンフォームを高圧・高充填で強固に密着させ、高耐力と均一な断熱性能を実現します。柱とのクリアランス1mmという高精度が現場施工の均一化を促し、安定した断熱性能と気密性を容易に確保することで、高品質な住まいづくりに貢献する。

株式会社FPコーポレーション

多くなってきましたが、「FPの家」の施主様には「FPの家」で良かったと感謝されています。

— 今回の活魚倉庫の事例を通して、FPパネルにどんな可能性を感じましたか？

元々は寒冷地における住宅において高断熱高気密住宅の先駆けとして活動してきましたが、硬質ウレタンという断熱材の特性を考えると様々な建築物に使用することが考えられます。

すでに葉物野菜の保冷倉庫や工場の遮音室、生花の保管室、ウニやトラフグの養殖施設など様々なものに採用されてきました。今回の活魚倉庫の事例は北海道内の「FPの家」会員工務店にも情報共有されており、2025年度は新たに冷凍倉庫と保冷倉庫の2棟が計画中です。

— 高橋建設様とのプロジェクトはいかがでしたか？高橋建設様との出会いや共創についての感想をお聞かせください。

元々、高橋社長の考え方が人が暮らす木造建築物には、FPパネルを採用した「FP

の家」が、そこに暮らす人々にとって最高の環境だと思っているものと強く感じます。

我々もまた断熱材の製造メーカーであるとともに住宅建築の会社ですから、同じ思いのもと様々な建築物の計画段階から相談しあえる関係を今後もつないでいきたいと思っています。

— FPコーポレーション様の今後の展開、または将来の展望などをお聞かせください。

「FPの家」は高性能な住宅を提供するだけでなく住まう人々の暮らしと命を守るといふ、より深い使命を帯びた家づくりへと舵を切るリブランディングを2025年6月に実施しました。これまでは、高断熱・高気密性能を追求するプロダクトアウト型でした。しかし、社会情勢の変化や自然災害の増加、健康意識の高まりを受け、住宅に求められる価値は変容しています。そこでマーケットインの視点を取り入れ、住環境だけでなく、日常生活のリスクや予測不能な災害から家族を守る新たな視点を

FPパネルに加えます。

この取り組みは、「くらしといのちを守るため。」というブランドメッセージに集約。FPパネルの性能を活かし、二つの側面から安心・安全を追求します。

一つは「日常の暮らしを守る」。FPパネルによる高断熱・高気密性能が室温のバリアフリー化を実現し、ヒートショックや熱中症、低体温症といった健康リスクを低減。一年を通して快適で健康的な暮らしを可能にし

ます。もう一つは「もしもの災害から守る」こと。FPパネルが持つ優れた耐震性能は、地震による建物の倒壊を防ぎ、家族の安全を確保。さらに、高い耐水性も兼ね備え、浸水被害時もFPパネルの再利用を可能とし、迅速な復旧を支援します。

私たちは、FPパネルという確かな技術力と、人々の暮らしと命を守る強い決意を胸に、未来の住まいを提案し続けます。

「トイレや会議室などの利用状況をセンサーで検知し表示する「Aitoru（あいとる）」 「利用者が迷わず目的地へ行ける環境づくり」と 「管理者の負担削減」を同時に実現

——今回、「次世代AI対応トイレ満空情報システム」を導入することになったきっかけは何でしたか？

当社では、以前からトイレや会議室の利用状況をいかに効率的に管理し、来訪者や社員の負担を減らすかという課題がありました。とりわけ衛生面にはコロナ禍以前から注力しており、ドアノブを肘で開けられるレバータイプに変更するなど、手指接触を最小限にする取り組みを続けてきました。そんな中、東洋ライト工業様の「次世代AI対応トイレ満空情報システムAitoru」を知り、事前に空き状況が分かれば廊下に出る扉を開ける回数も減らせると考え、導入を検討しました。結果的に、利用者が

迷わず目的のトイレや会議室へアクセスできるだけでなく、無駄な接触リスクや移動時間を抑えることにもつながっています。

——実際に導入してみて感じたメリットや、特に便利だと感じている機能があれば教えてください。

最大のメリットは、ワイヤレスセンサーでリアルタイムに満空情報を取得し、LEDサインやサイネージモニターに即時表示できる点です。管理担当者がフロアを巡回せずに、「どこが使用中か」をひと目で確認でき、利用者も廊下に出る前にトイレの空き状況を把握できるため、待ち時間や混雑を避けやすくなりました。さらに、LEDサインは当社の要望に合わせたカスタマイズデザインで導入し、視認性や設置場所との調和を考慮していただいたおかげで、社内のブランドイメージを保ちながら分かりやすく表示できています。また、当社は25人槽の浄化槽を使用しており、将来的にはトイレ稼働データを分析し、実際の負荷に応じてメンテナンスやクリーニングのタイミングを最適化し



1 2F 応接室入口付近の天井に設置。満室時には「赤」に点灯する。
2 1Fのトイレドア付近に設置。ドアを開けなくても空き状況がわかる。
3 会社エントランスに設置したモニター。どこが使用中で、どこが空いているか一目でわかるようになっている。

——今回、株式会社ディビーエス様に施工された「次世代AI対応トイレ満空情報システム」について教えてください。

当社の「次世代AI対応トイレ満空情報システムAitoru」は、トイレや会議室などの利用状況をセンサーで検知し、LEDサインやサイネージモニターにリアルタイムで「どこが空いているのか」を表示する仕組みです。ディビーエス様の施設では、1階・2階のトイレ、2階の会議室・応接室に導入いただきました。特にエントランスにはモニターを設置して全体の空き状況を「一覧表示」、オフィススペースにはLEDサインを取り付けて待ち時間短縮を図っています。こうした可視化によって、「どこが

使用中で、どこが空いているのか」が目で分かり、利用者の混乱を防ぐだけでなく、管理担当者の業務効率化にも貢献しています。

——「次世代AI対応トイレ満空情報システム」を提案した経緯を教えてください。

ディビーエス様からは、「利用者が迷わず目的地へ行ける環境づくり」と「管理者の負担削減」が同時に実現できる方法を探している、とご相談を受けていました。そこで当社は、クラウドを活用したワイヤレスセンサーによるリアルタイム検知と、モニター・LEDサインを活用したWeb配信（遠隔での表示更新）を組み合わせるAitoruをカスタマイズの対応を含めてご提案いたしました。

〈建材ナビ〉経由のやり取りでは、初期導入コストや保守費用を含めたシミュレーションをご提示し、「スムーズな施設運営」と「コスト面」との両立が可能である点を評価していただきました。

——「次世代AI対応トイレ満空情報システム」を導入した結果、

株式会社ディビーエス

愛知県豊橋市豊栄町字東 358-1
0532-41-6316



山本俊輔

代表取締役社長
愛知鉄筋業協同組合副理事長、
(公社) 全国鉄筋工事業協会
外国人受入システム WG リーダー



1970年豊橋市生まれ。1993年に株式会社ディビーエスに入社以降、新製品開発を手掛ける一方で、鉄筋業界の発展のために活動を続ける。

メーカープロフィール

東洋ライト工業株式会社

愛知県豊橋市入船町 18 番地
0532-45-2712



高木 乙彦

営業グループ グループリーダー



2013年、東洋ライト工業入社。
2021年、営業グループ グループリーダー (GL) 就任。2023年の Aitoru 次世代 AI 対応トイレ満空情報システムのリリース開始以降、「空いているね は安心のしるし」をコンセプトワードに、顧客への提案活動に注力。

「Aitoru」
満空制御ユニット

「満空制御ユニット」は次世代 AI 対応トイレ満空情報システムの制御機器です。個室内に設置することで、個室の状況はセンサ情報を受けて判断し、個室の周辺機器を制御することができます。

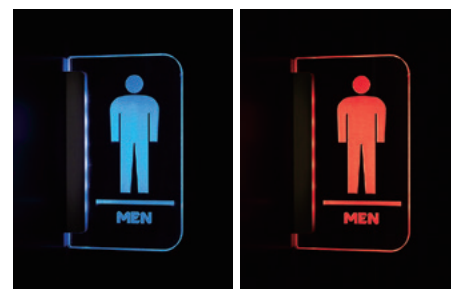


「最後に、今回の導入が貴社の企業運営や将来の展望などどのように活かされていくか、お聞かせください。」
当社は、鉄筋加工の領域で「さらに進化しなくてはならない」という思いを掲げ、スマートファクトリー化や IoT 技術の活用を進めてきました。今回 Aitoru を導入したことで、ものづくりの現場だけでなく、

確認できるので助かる」という声が上がっており、業務効率が高まったと感じます。
Aitoru によって、日常的な管理業務や来訪者対応をよりスムーズに行えるようになっただけでなく、施設全体の使い勝手を高める「ユーザーファースト」な運営を実現できると実感しました。今後は利用状況データの分析をさらに進めることで、「より効率的で快適な空間づくり」を深め、社内外の皆様にとって価値あるサービスを提供し続けたいと考えています。



「今回のシステム導入によって、一番大きな変化はどのような部分に感じられますか？」
やはり「利用者が迷わなくなった」という点が大きいですね。以前はトイレや会議室の空きを確認するために行き来する必要がありました。Aitoru 導入後は LED サインやモニターでひと目で分かるので、廊下での行き違いによる接触機会の減少にもつながっています。さらに、WEB 配信による遠隔確認が可能なので、離れたフロアや外出先からでも「今ほどの部屋が空いているか」を把握できるのが大きな変化です。社員からは「急に会議室が必要になった時でも、わざわざ見に行かずにサインを



LED トイレ満空サインは、トイレなどの個室の入り口に設置し、満室時に「赤」、空室時に「水色」に点灯することで、一目で個室の使用状況がわかる LED サインです。

VOL. 25

トイレや会議室などの利用状況をセンサーで検知し表示する「Aitoru (あいとる)」

「利用者が迷わず
目的地へ行ける環境づくり」と
「管理者の負担削減」を同時に実現

広がる Aitoru の
活用シーン

- 商業施設やフィットネスジムのフィッティングルームの使用状況を可視化
- 商業施設のトイレ使用状況を可視化



東洋ライト工業株式会社

クライアント様からの評価は、どのようなものでしたか。

ディビーエス様は、IoT やクラウド技術へのご理解が深く、「LED サインとモニターを活用することで、来訪者がどこに行けばいいかを迷わなくなる」と高く評価してくださいました。特に、トイレブース単位での待ち時間短縮に加え、当日の来客情報を更新しながら「どの会議室が誰のために確保されているか」を色分け表示できる点が好評でした。

さらに、想定より安価なランニング費用で運用できるとのこと、サービス導入後の経済的負担を最小限に抑えながらも充分な機能を活用していただいています。こうしたメリットが明確になったことで、施工から実運用への移行もスムーズに進んだと感じています。

「貴社の今後の展開をお聞かせください。」

当社で開発した IoT 技術と AI 解析を活用した革新的なトイレ満空情報システム「Aitoru & AI」と「Suitoru & AI」

の推進、普及を進めて参ります。

① Aitoru & AI (クラウド型) : 小規模施設向けクラウド型システムで、手軽な導入と柔軟な管理を実現します。

② Suitoru & AI (ローカル型) : 大規模施設向けローカル型システムで、高い安定性とランニングコスト削減が特長です。

主な機能 ■ 満空情報 (個室利用状況) ■ 混雑情報 (施設全体の稼働状況を AI 解析) ■ 温度・湿度・CO₂ 濃度などの環境モニタリング ■ 長時間利用を検知し通知

リアルタイムデータ収集として、人感センサ、マルチセンサ、ネットワークカメラなどで利用状況や環境データを検知します。これらのシステムは利用者に快適な空間を提供し、管理者の業務効率を大幅に向上させます。こうした取り組みを通じて、「ただ満空を見せるだけでなく、データを活用してさらに効率化を図る」という新たな段階に進み、より多くのユーザーが快適に利用できる環境を提供していく所存です。

新たな時代に
適応する解決策を、
多様な選択肢から

MANUFACTURER

建材メーカーのこと、建材業界のこと、製品はどのように生まれるのか、施工実績がどのように社会に影響を与えるのか、ものづくり企業としての、苦労や喜びなどの想いをたっぷり語っていただきました。

建材メーカーへのインタビューは、建材ナビのインタビューコンテンツ「すまいりんぐ」でも同時紹介しています。

SumaiRing



優れた吸音性と不燃性に
意匠的な美しさをプラス

マグ・イゾベール株式会社

独自の配合設計・解析技術で
「音」を解決します

イイダ産業株式会社





金属屋根用 制振テープ 〈ゼトロ〉

高級車の静音技術から生まれた制振テープ。ガルバリウム鋼板の裏面に貼るだけで「雨音騒音を10dB低減」します。

指標は、空間音圧レベル差や床衝撃音レベルなど物理量により決められておりますが、従来の物理指標を目標とした製品開発に加え、近年はより生活する人の感じ方に焦点をあてた心理音響技術の開発に力を入れております。大学との共同研究により当社独自の音質評価指標を設け、商品開発に取り組んでおります。

時代ニーズに合わせ、施工時間の大幅短縮工法の開発に成功

当社は、職人の担い手不足や働き方改革などの背景に着目し、「省施工の時短建材」を開発しております。例えば壁用遮音テープ

集合住宅やホテルが求める「遮音性能」への高い要求に対応

私たちの製品は集合住宅やホテルなど「音」に関する要求性能が高い物件にご採用いただくことが多いです。

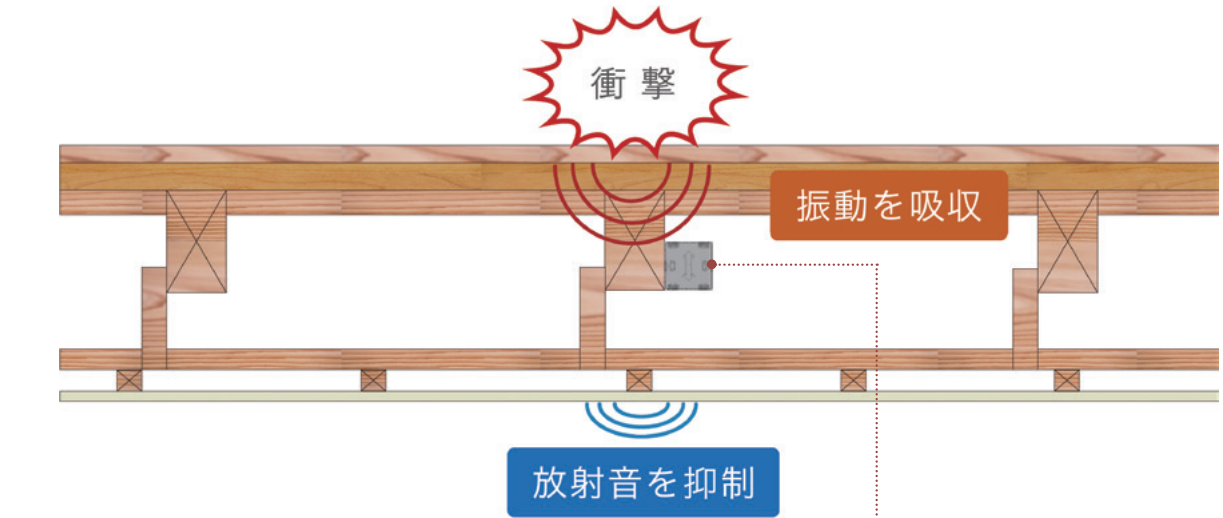
昨今は、リノベーション需要増加に伴い、0・5mmの薄いテープ状で大幅な設計変更無く、遮音性能を1ランクUPできる壁用遮音テープ〈ゼトロ〉や、低床で天井高を確保しつつL・L・45の遮音性能と、高性能グラスウール48K同等の断熱性能が担保できる直床断熱遮音ユニット〈シャルダン〉のお問合せをいただくことが増えております。

注目は、木造建築物のLHを解決する新製品〈ミュートブロック〉

注目の製品は、今春リリースした木造建築物ならではの課題である重量床衝撃音（LH）を解決する〈ミュートブロック〉です。LHの対策は床を厚くするのが一般的ですが、床梁に取り付ける〈ミュートブロック〉は、広い居住空間を保ったままLHの改善が可能です。㎡あたり1個の設置で、構造体の見直しの必要なく性能が1ランクUPします。早速、国の有形文化財登録温泉宿のリノベーションに採用いただき、現在、幾つかの木造集合住宅へも採用ご検討いただいております。

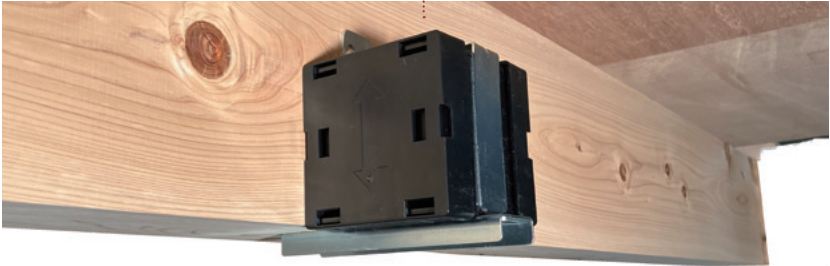
注目は、木造建築物のLHを解決する新製品〈ミュートブロック〉

注目の製品は、今春リリースした木造建築物ならではの課題である重量床衝撃音（LH）を解決する〈ミュートブロック〉です。LHの対策は床を厚くするのが一般的ですが、床梁に取り付ける〈ミュートブロック〉は、広い居住空間を保ったままLHの改善が可能です。㎡あたり1個の設置で、構造体の見直しの必要なく性能が1ランクUPします。早速、国の有形文化財登録温泉宿のリノベーションに採用いただき、現在、幾つかの木造集合住宅へも採用ご検討いただいております。



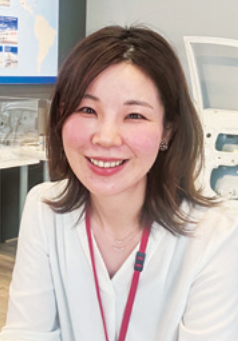
木造用重量床衝撃音低減ダンパー 〈ミュートブロック〉

既存の床梁に取り付けるだけで床の振動を吸収し、歩行音や飛び跳ね音などを低減できる箱型ダンパーです。一般的な対策とは異なり、床高さを上げることなくLHの改善が可能です。



高級車の静かな空間をつくる 遮音・防音性能

INTERVIEW MANUFACTURER



富田依里

イイダ産業株式会社
第二営業部 係長

入社より自動車用防音材・制振材の販売を長年担当し、そのノウハウを活かして、現在は建築業界における音や振動の改善に役立つ建材の新規開発案件やWEB 拡販業務に従事しております。HP からのお問合せは勿論、実物を用いた商談に関しても、是非お気軽にお問合せ下さい。

イイダ産業株式会社

愛知県稲沢市
目比町一町割 770-1
0587-36-6100



高級車の技術を建材へ 独自の配合設計・解析技術で「音」を解決します

金属屋根用制振テープ〈ゼトロ〉誕生のきっかけ

昨年創業70周年を迎えた当社は「音」や「振動」に関わる快適性を追求し、見えないところから安心・安全・快適を支える機能部品を開発・販売し、世界中の自動車メーカーとお取引させていただいております。

当社が建材事業へ展開することになった経緯は、元自動車部品会社の方より、ガルバリウム

屋根の雨音対策に、高級車のドアや新幹線に「音」の改善・対策アイテムとして設定されている制振テープを使えないか、ご相談を受けたことがきっかけでした。そこから、金属屋根用テープ〈ゼトロ〉が生まれました。

私たちは、高級車や新幹線の防音と制振を手がけるメーカーだからこそ、建材業界で生かせる強みがあると考えております。高い品質や性能が求められる自動車業界で培った品質管理を基に、独自の視点で新しい製品を生み

住環境を快適にする「心理音響技術」の開発に取り組む

住宅をとりまく音環境の性能

出すことができる技術力、自社で開発から製造まで一貫してスピーディに手掛けることができる強みを活かし、快適な住空間づくりを追求する建材開発を行っております。半無響音室をはじめとした「音」に関する各種分析機環境や機器を保有しており、様々な評価が可能な点も強みです。

Ecophon Fade

ブラスター吹付で実現する
シームレスな天井吸音材。従
来のモジュール式システムに
代わる、より柔軟かつシーム
レスで美しい空間を実現する
吸音ソリューションです。



COLUMN

サンゴバングループの
歴史と実績

サンゴバングループは今年で
360年を迎えます。この長い
歴史の中で、サンゴバンは建築、
輸送、医療、その他の産業用ア
プリケーション市場向けの材料お
よびソリューションを設計、製造、
販売してきました。さらに、サン
ゴバンは10年連続で世界で最も
革新的な企業100社の一つに選
ばれており、その評価は特許出
願数やその影響力、特許取得成
功率などに基づいています。サン
ゴバンの使命は「世界をより良
い住まいに (Making the World
a Better Home)」であり、持続
可能な建築や資源効率、気候変
動の課題に取り組みながら、快
適さや高い性能と安全を提供し
ています。

〈Ecophon〉製品最大の
特徴は多彩な選択肢と
施工面の美しさ

表面材の1つである塗装付き
ガラス繊維不織布「Akutex FT」
は、標準色その他、カスタマイズ
可能なカラーオプションを展開
しており、インテリアデザイン
に応じて最適なカラーを選ぶこ
とができます。ハリのある美し

い表面材と高密度で硬質なグ
ラスウール基材で構成された
Ecophon製品は、施工面にシワ
がよりにくく、角が崩れにくい
ため、高品質な外観を維持しま
す。さらに、洗練されたシーム
レスな天井面を実現するプラス
ター吹付天井〈Ecophon Fade〉、
高耐久ニット生地 の膜天井
〈Ecophon Dipso〉や、最大サイズ
3,000mm×1,200mmの独
立天井板〈Ecophon Solo〉など、
豊富なラインナップをご用意し
ております。自由なデザインを
可能にする幅広いバリエーショ
ンと美しい仕上がりから、ヨー
ロッパをはじめとする世界中の
音響施設や商業施設、オフィス
ビルなどで Ecophon は選ばれて
います。

日本初登場 「理想的な音環境」を創造する
高性能吸音材 〈Ecophon〉

優れた吸音性と不燃性に
意匠的な美しさをプラス

〈Ecophon〉の強みと独自性

プレミアム吸音材ブランド
〈Ecophon (エコフォン)〉は、世
界約30か国で展開しているス
ウェーデンの吸音材ブランドであ
り、建築資材のグローバルカン
パニーであるサンゴバングループ
の一員です。日本では、音響の重
要性は十分に認識されていませ
んが、良い音環境は集中力向上、

記憶力や認知機能向上、ストレ
ス軽減など、室内環境に不可欠
な要素です。Ecophonは、すべ
ての人に良質な音響環境を提供
することを使命とし、製品の開発・
製造・販売に取り組んでいます。

吸音材ブランド〈Ecophon〉
シリーズ発売開始

まずは、日本国内での不燃認定

活かし、常に最新の技術を取り
入れた高性能な吸音材を提供
しています。〈Ecophon〉製品は、
最高品質の吸音性と不燃性、低
VOC(揮発性有機化合物)によ
る安全性を備えており、オフィ
ス、商業施設、ホテル、教育施設、
病院などのウェルビーイングな
環境づくりに貢献しています。

日本において吸音への
意識向上とその効果を
お伝えしていきたい

なによりも吸音に対する意識
向上とその効果をお伝えしてい

くことが課題と考えています。日
本において吸音に対する意識は
今以上に高められると思います。

〈Ecophon〉はISO規格に準じ
た吸音性能試験を行っており、
周波数帯ごとの吸音データを製
品ごとに持っています。それによ
りお客様が求める音響環境を実
現するお手伝いが可能です。

世界中のいくつかの研究で証
明されている音響環境の改善に
よる「ウェルビーイングと満足
度の向上や疲労の軽減、集中力
の向上」などが日本の事例とし
ても幅広く認知いただけるよう
に活動していきたいと考えてい
ます。

サンゴバングループの

一員であることの優位性

世界中の市場にアクセスでき
る広範なネットワークを持つサ
ンゴバンは、その研究開発力を



Ecophon Solo

優れた音響特性を持つフリーハンギングの吸音パネル。
豊富な色、サイズを取り揃えておりデザインの自由度が高
い製品です。

マグ・イズバール株式会社

東京都千代田区麹町
3丁目7番地
サンゴバンビル
0120-941-390



すぐに見つかる 建材カタログ



掲載数
6,000 カタログ
30,000 ギャラリー

Kenzai-Navi
建材ナビ

カタログ閲覧、ダウンロード、お取り寄せが
簡単だから、スペックインに便利!!

無料利用! 今すぐ「かたなび」で検索!

🔍 かたなび

カタログ探しが楽しくなるイベントも開催中!

【新年】

先取り新着

どこよりも早くお届け
先取り新着カタログ

【春】

新カタログ勢ぞろい

どこよりも早く
最新だけをお届け

【秋】

総合カタログ

この一冊で全てが揃う
最新総合カタログ特集

【年末】

年間総まとめ

今年最後の総まとめ
厳選カタログ特集

30,000 枚の施工写真からアイデアを見つける。デザインを形に!



SumaiRing

すまいりんぐ

過去の
建材ナビジャーナルが
読める!



豊富な
インタビュー記事を
お楽しみください。

Kenzai-Navi
建材ナビ

お役立ちコラムやインタビュー満載!

🔍 すまいりんぐ

SumaiRing にしかないオリジナルコンテンツもたくさんあります!

SPECIAL 建築・建材業界のニュースや著名人へのインタビュー



STORY 建材ナビを通じてコラボに至った設計士と建材メーカーのプロジェクト紹介



ARCHITECT

プロフェッショナルな設計士への
インタビューと設計事務所の紹介



COLUMN

建材や建築のことをわかりやすく紹介する
コラム



MANUFACTURER

建材メーカーにモノづく
りの想いを語っていただ
くインタビュー記事

